

文化芸術×共生社会フェスティバル

共生社会に向けて

文化芸術の 未来を 語り合う

みらい

を

上田 假奈代氏

NPO法人こえとことばとこころの部屋
(ココルーム)代表理事

写真:成田舞



森 司氏

アーツカウンシル東京
事業推進室事業調整課長

写真:加藤甫

保坂 健二郎氏

滋賀県立美術館
ディレクター(館長)



写真:木奥恵三

一部

14:00-

ハンドベルコンサート 花鈴人

二部

14:35-

トークイベント



花鈴人

日時: 2022年2月5日(土) 14:00 - 16:15 (開場時間: 13:30)

場所: 滋賀県立美術館 木のホール (大津市瀬田南大萱町1740-1)

料金: 無料 定員: 70名(要申込/先着順)

■ご予約・お問合せ先

インターネットの予約フォーム(QRコード)・電話・FAXにてお申込みください。

(①お名前②電話番号③人数④必要な配慮をお知らせください)

(公財)びわ湖芸術文化財団 地域創造部 (火曜休)

TEL: 077-523-7146 FAX: 077-523-7147

<情報保障・アクセシビリティ>

受付時筆談可、手話通訳(配信も有)、ヒアリンググループ(トークのみ)、車椅子可、補助犬可

主催: 滋賀県、「文化芸術×共生社会プロジェクト」実行委員会
令和3年度 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業



滋賀県では、文化・福祉団体、NPO法人、県・市町等の多様な主体が連携し、障害の有無等にかかわらず誰もがともに文化芸術活動に親しむ環境の実現を目指し、令和2年度から2年間にわたり、モデル事業とフェスティバルを開催してきました。この2年間の取組を踏まえ、文化芸術×共生社会の実現に向けた展望を皆さまとも対話をしながら、一緒に考えます。また、第一部では、花鈴人によるハンドベルコンサートをお楽しみいただきます。

一部 ハンドベルコンサート

花鈴人…………… 心身障がいや発達障がい、知的障がいのある方々、診断はないけれど気になっている方やそのご家族の方々が、音楽やお花を通じて繋がるためのボランティア団体「音と花と人」の中で活動するグループです。2019年4月から、月に一度、音楽やお花に触れる活動に取り組みながら、心にたまっていく思いを伝え、共感しあえる時間を作って（茶話会）楽しんでいます。

二部 トークイベント

上田 假奈代 …… 1969年奈良県吉野生まれ。詩人。3歳より詩作、17歳から朗読をはじめ。2001年「ことばを人生の味方に、詩業家宣言」。2003年、大阪・新世界で喫茶店のふりをしたアートNPO「ココルーム」を立ち上げ、2012年「釜ヶ崎芸術大学」開講。2016年ゲストハウス開業。大阪市立大学都市研究プラザ研究員、NPO法人こえとことばとこころの部屋（ココルーム）代表理事。堺アーツカウンシルプログラム・ディレクター。大手前大学非常勤講師。

森 司 …… 1960年愛知県生まれ。水戸芸術館現代美術センターの学芸員として20年間勤務した後、2009年に公益財団法人東京都歴史文化財団に移籍。現在アーツカウンシル東京事業推進室事業調整課長。NPO等と協働実施する「東京アートポイント計画」や人材育成事業にディレクターとして携わる。2015年より背景や習慣の違いを超えた多様な人々の出会いによる相互作用を表現として生み出すアートプロジェクト「TURN」を担当する。

保坂 健二郎 …… 1976年茨城県生まれ。東京国立近代美術館に約20年間学芸員として勤め、2021年1月より滋賀県立美術館のディレクター（館長）を務める。近現代芸術、建築展の方法論、アール・ブリュットを研究テーマとし、国内外で多くの展覧会を企画、また大学での教育や諸メディアでの執筆も多数。これまで、内閣府「障害者政策委員会専門委員」、厚生労働省・文化庁「障害者の芸術活動への支援を推進するための懇談会」構成員などを歴任。

会場：滋賀県立美術館（大津市瀬田南大萱町1740-1）

●公共交通でお越しの場合

JR「瀬田駅」で下車。路線バスに乗り換え「文化ゾーン前」で下車（約10分）

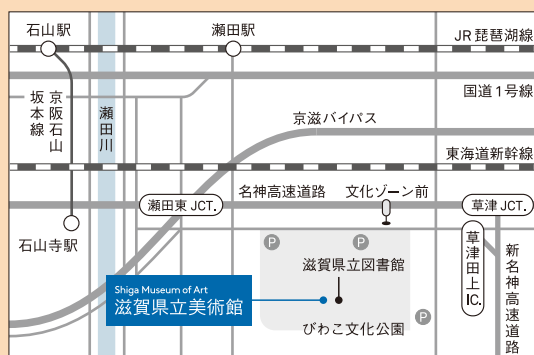
帝産バス（1番のりば）/近江鉄道バス（2番のりば）から

「滋賀医大」「大学病院」行きバス停より徒歩約5分

●お車をご利用の場合

新名神高速道路「草津田上インター」より約5分

びわこ文化公園駐車場（無料）に駐車いただき、美術館まで徒歩約5分



新型コロナウイルス感染症の影響により開催内容を変更、または中止させていただく場合があります。

その場合、滋賀県HPでお知らせするとともに、お申し込みいただいた皆さまにご連絡します。



澤田真一《お面》2014年 滋賀県立美術館蔵

滋賀県立美術館の
企画展情報

人間の才能 生み出すことと生きること

2022年1月22日（土）～3月27日（日）

本展で紹介する人たちのほとんどは、プロのアーティストではありません。誰かに評価されることなど望まず、独自の方法論で制作する彼らの作品からは、「生み出すことと生きること」を接続させていくことの大切さを感じ取れるはずです。ヴェネチア・ビエンナーレでも紹介された澤田真一、百鬼夜行的イメージを描く鶴飼結一朗、空想の本やDVDのジャケットをデザインする上土橋勇樹、記憶に基づきたおやかなイメージを紡ぎ出す澤井玲衣子など、全17作家。